

いわいずみ 議会だより Iwaizumi

2014
8.1
No.

168

発行 岩手県岩泉町議会



介護予防の3拠点を改修 2p

三セク5社の経営状況 3p

町の考えを問う (3議員が一般質問) 6p

分野別「議員と語る会」開催報告 12p

まちの笑顔 86

1打目、とまりそう♪
ヤッター!!

(浅内小学校で行われた
世代間交流の様子)

拠点を改修

6月定例会のあらまし

6月定例会は6月11日から13日までの3日間にわたり開かれました。
一般質問では、3人の議員が活発な議論を展開しました。条例改正と補正予算は特別委員会を設けて集中審査。その結果、すべての議案を全会一致で原案のとおり可決しました。



昼食の様子（松ヶ沢公民館）

介

護予防活動拠点施設改修工事に1731万円の補正予算を可決しました。

活動の拠点である松ヶ沢公民館、大平保健福祉館、坂本地区集会所のトイレや調理室を利用しやすいように改修するものです。

同施設で、介護予防に取り組んでいる「上安家支え合いの会」（会員50人）会長の三好悦子さん（安家・64歳）に、活動のきっかけなどをインタビューしました。



上安家支え合いの会
会長 三好悦子さん

―会を結成するきっかけは。

三好 年を取った人の「寂しい、孤独だ」という声を聞いて、地域で高齢者が孤立、孤独を感じないように、何とか元気で楽しくできないものかと思ひ、平成24年4月に「上安家支え合いの会」を結成しました。

―活動内容を教えてください。

三好 月1回各施設（松ヶ沢公民館、大平保健福祉館、坂本地区集会所、旧大平小学校）を持ち回りで活動しています。

内容は、介護予防運動、ゲーム、昼食の提供（郷土・伝統料理を取り入れながら地場産品を活用した料理）などです。

「声かけあっぺえし」というお便りを出して、地域に知らせたりスタッフが会員に配達しながら声をかけて誘い合っています。

地域で「元気に楽しく声かけあつてみんな生きていく」がモットーです。

―どんなことに苦労していますか。

三好 企画、運営、実行することは大変な時もありますが、「楽しい、おいしい」と言ってくれる言葉と、スタッフの協力を励まされていきます。

この会を楽しく担当と息長くやっていくことが大事だと感じています。

―施設の改修について思いを聞かせてください。

三好 調理室が狭かったり、トイレが小さかったり利用者が不便を感じていました。

今後ますます人口が減ったとしても、地域で支え合つて、元気に楽しく生きていきたいと思ひます。ありがとうございました。

介護予防の3

三セク2社が黒字決算

セク(※1) 5社の経営状況に
関する報告がされました。

成26年1月から3月は赤字決算となりました。岩泉乳業(株)は3年連続、(株)岩泉きのこ産業は5年連続の単年度黒字決算となりました。

町が資本金の2分の1以上を出資している会社と公益法人は、地方自治法の規定により、毎年経営状況を議会に報告しなければなりません。例年、6月定例会で報告されませんでした。本定例会で報告された決算の概要は、下の表のとおりです。

(株)岩泉総合観光の決算期は、ほかの三セクと揃えるために、12月から3月に変更しました。このことにより25年度決算の報告が2期分、平成25年1月から12月は黒字決算、平

成26年1月から3月は赤字決算となりました。岩泉乳業(株)は3年連続、(株)岩泉きのこ産業は5年連続の単年度黒字決算となりました。一方で、(株)岩泉産業開発は、500ミリリットルの水の売り上げが伸びたものの、山菜やワサビ、短角牛肉の振興部門で大きな赤字が出ました。



産業開発は、500ミリリットルの水の売り上げが伸びたものの、山菜やワサビ、短角牛肉の振興部門で大きな赤字が出ました。

(株)岩泉農業振興公社は、粗飼料生産などの公益事業と堆肥製造販売などの収益事業を行ってまいります。

町議会は、報告される三セクの経営状況などに対し、法の趣旨である監視を行うとともに



岩泉のむヨーグルトをブレンドしたソフトクリーム。(龍泉洞の「ポンテ」限定販売。)観光客にも人気です

三セク5社の決算状況の概要(25年度決算)

(単位:万円)

会社名	資本金	町出資金	町出資比率	経常損益	純損益
(株)岩泉総合観光(※2)	10,000	7,250	72.5%	701 ▲510	504 ▲416
(株)岩泉産業開発	42,600	37,000	86.9%	▲1,101	▲1,288
(株)岩泉きのこ産業	30,500	28,400	93.1%	6,892	6,144
岩泉乳業(株)	38,000	36,400	95.8%	9,296	8,335
(社)岩泉農業振興公社	4,500	3,750	83.3%	▲1,764	▲733

に、町民の皆さんや町当局と一丸となり、持続的な経営による雇用の確保を支援してまいります。

岩泉中工事契約を議決

■町道メンブクメ線
改良舗装工事

■町道早坂1号線
舗装工事

■岩泉中学校校舎
大規模改造建築工事

■小川こども園
建築工事

■町道茂井1号線
舗装工事

事請負契約に關する10議案を可決しました。

主な内容は次のとおりです。

▽金額 6858万円
▽請負者 小野新建設(株)

▽金額 6372万円
▽請負者 小野新・三好舗装経

▽金額 5616万円
▽請負者 高德建設(株)

▽金額 2億3976万円
▽請負者 (株)西倉工務店

▽金額 1億2312万円
▽請負者 (株)畑中組

阿部さんを推薦 人権擁護委員の候補者

人権擁護委員の候補者に小本の阿部範子さん(58)を推薦することになりました。

同委員は町が議会の意見を聞き、法務大臣に推薦します。

竹花恵美子さんが9月30日で任期満了になるため、新たに阿部さんを後任の候補者として推薦するものです。

任期は法務大臣が委嘱した日から3年間です。



あべ のりこ 阿部 範子さん

(※1) 第三セクターの略。国や地方公共団体等の公共部門(第一セクター)と民間部門(第二セクター)との共同出資で設立された事業主体
(※2) 決算期を12月から3月に変更したことにより2段で掲載した。(下段は、平成26年1月から3月分)



町民や観光客が散策する遊歩道

龍泉洞遊歩道 安全確保のため調査

条例補正予算審査の特別委員会（合砂丈司委員長）では、町立図書館設置条例の一部改正や2つの会計の補正予算を審査し、付託された議案すべてを可決と決定。その後の本会議で、全会一致で原案のとおり可決しました。委員会の審査の中からいくつかの質疑を要約してお伝えします。

6月補正予算の状況

会計名	補正額	補正後の予算額
一般会計	5億2326万円	121億4326万円
観光事業特別会計	1534万円	1億7374万円

条例改正と補正予算の主な内容

- ◇町立図書館設置条例の一部改正
移転に伴い、町立図書館の位置を松橋に、閉館時間を午後7時に変更します。
- ◇町道水上線等災害復旧工事 7628万円
平成25年7月の集中豪雨により被害を受けた国境、見内川地域の町道復旧工事を行います。
- ◇被災農業者緊急支援事業補助金 2966万円
平成26年2～3月の豪雪により被害を受けた農業施設の再建や修繕、撤去に伴う費用を支援します。
- ◇社会保障・番号制度システム整備委託料 1285万円
平成28年1月から実施される番号制度（※）に伴い、システムの整備を行います。

龍泉洞温泉ホテルから龍泉洞までの溪流沿いの遊歩道は、橋などの老朽化が進んでいるので、安全に散策するためにはどのような手立てが必要なのか調査をします。

（※）行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律に基づき、国民および法人すべてに番号が付番され、公的機関が専用回線を通じて情報を利用する制度



三陸ジオパークには、龍泉洞のほか、昭和53年に日本で初めて恐竜の化石が発見された「モシリユウの化石発見地」なども認定されています

龍泉洞 洞内の照明に変化を今後、検討していく

問 龍泉洞内のLED照明は賛否両論がある。イベントや冬期の誘客に限定してはどうか。

答 好評の声が多いと捉えているが、照明の色は変えられるので、今後検討していく。

問 龍泉洞が恋人の聖地に認定された。周辺の環境整備について、進捗状況はどうなっている。

答 引き続き地権者と交渉を進めているが、合意を得るには難しい状況にある。

問 恋人の聖地の銘板設置方法は。

答 龍泉洞の入り口付近には、町内のチェンソーアート作家が制作する彫刻の中に銘板を設置する。

うれいら商店街の親水空間「初恋水・百恋水」には、水中に設置する。

問 ジオパーク（※1）ガイドブックの活用方法は。

答 ジオパークの観光客や町民への配布を考えている。

ふるさと納税の特典見直し内容は対象の寄付金額を下げた

ふるさと納税の実績

年度	件数	金額
20・21	15	270万6000円
22・23	79	2594万6000円
24・25	74	1353万5000円
計	168	4218万7000円

問 見直したふるさと納税（※2）の特典内容を聞く。

答 これまでは、20万円以上の寄付者に3000円相当の特産品を贈っていた。

見直しにより、1万円以上の寄付者に、5000円相当の選べる特産品を設定した。

問 寄付金額の半分である。謝礼にしては多いように感じるが、5000円は何を基準に決めたのか。

答 町と全国のふるさと納税が集まるホームページを更新する。また、岩泉町ふるさと会（※3）などへPRしていく。

問 全国ふるさと納税ランキングでは、1万円に対して半分のところが人気である。

答 これをきっかけとして、町の産業振興に結びつけたい。

問 もっとふるさと納税を増やしていく必要があると思うが、PRの方法は。

答 町と全国のふるさと納税が集まるホームページを更新する。また、岩泉町ふるさと会（※3）などへPRしていく。

後継校舎を介護予防の拠点に地区住民と連携し進める

問 統合後の旧校舎を介護予防の活動拠点として整備するなど、関係課と横の連携を取りながら施策を立案できないか。

答 関係課のほか、地区住民と協議しながら進めていく。



入口の天井がはがれ、錆が多くなっている有芸小学校の旧時葛分校体育館（平成5年度統合）



階段が崩れて危険な状態の岩泉小学校の旧月出分校体育館（平成8年度統合）

問 統合から数十年経ち、物理的寿命により危険な建物が見受けられる。地区では撤去できないと思うので、町で解体する考えはないか。

答 地区住民と相談し、ほかの使い道がなければ解体の方向で進めたい。

（※1）科学的に貴重な地質遺産を複数含んだ自然の公園。龍泉洞などは平成25年9月に三陸ジオパークの認定を受けた
 （※2）自分が選んだ自治体に寄付すると、寄付金額に応じて所得税と住民税から一定額の控除を受けられる制度
 （※3）本町の出身者などで構成する会員約450人の団体

臨時会

第2回から第4回臨時会の
主な内容をお知らせします。
提案された議案は、審査の結果、
すべて全会一致で原案のとおり
可決しました。

第2回

(3月25日開催)

除雪費6千万円 補正予算で可決

この臨時会では、消
費税率の改定に伴う変
更契約に関する2議案
と、2つの補正予算を
可決しました。

■一般会計補正予算

▽追加額
6325万4000円

第3回

(4月25日開催)

集団移転地造成 工事契約を可決

この臨時会では、工
事の請負など契約に伴
う13議案と洗砂機購入

に関する議案を可決し
ました。

■工事名 集団移転地
造成区画工事

▽金額

8940万3480円

▽請負者 (株)畑中組

■工事名 準用河川小
本川河川災害復旧工事

▽金額

1億2528万円

▽請負者 高德建設(株)

第4回

(5月23日開催)

小本小・中学校 工事契約を可決

この臨時会では、工
事請負契約に伴う3議
案と町立図書館の備品
購入に関する議案を可
決しました。

■工事名 公立学校施

設災害復旧事業岩泉町
立小本小学校及び小本
中学校移転復旧(校
舎・屋内運動場) 建築
工事

▽金額

18億2844万円

▽請負者 宮城建設・
小野新・フジネ経営共
同企業体特定共同企業
体

町の考えを問う

一般質問

一般質問とは、議員が町長などの執行機関に対し、事務の執行状況や
将来の方針などについて、所信や疑問をただすこと、あるいは報告や説
明を求めることを言います。

この一般質問により、執行機関の政治姿勢を明らかにするとともに、
政治責任を明確にさせます。

結果として「現行の政策変更」や「新規政策を採用」させるなどの効
果があります。

内容を要約して登壇順(質問順)にお知らせします。

なお、質疑全文を記録した会議録は、9月下旬ころから町立図書館ま
たは役場各支所図書室で閲覧可能となる予定です。

3人の議員が発言 ～質問内容～

- ① 三セクホールディングス化を聞く
- ② 防災体制の強化をはかれ
- ③ 国保税の割引制度の創設を

三田地久志 7p

- ① 三セクの経営改善を
- ② 被災住宅再建に支援策を
- ③ 高齢者の支え合い対策は

坂本 昇 8p

- ① スピード感を持った復興を
- ② シイタケIJU ターン事業の評価は

林崎寛次郎 9p



三セク ホールディングス化を聞く

みたち ひさし
三田地 久志 議員

事業改善や拡大に有効な手法

伊達 町長

町の考えを問う



三セク4社のホールディングス化が検討されています

三田地久志議員 町長の構想である三セク4社のホールディングス化(※1)について聞く。

①ホールディングス化のメリット、デメリットはそれぞれあるが、各社とも債務超過の状況ではない。デメリットも解消できる最善の方法は減資(※2)しかないと考える。

減資は後ろ向きに捉われがちだが、三セクの経営効率を改善するために行うべきと思うかどうか。

②ホールディングス化の最終到達点は、経営統合した三セクの完全

民営化である。これからの三セクの真の姿になると思うが、町長の考えは。

伊達町長 ①減資については、累積欠損金の解消のみならず、財務の改善と強化および新たな事業拡大を行う上で有効な手法であると認識している。引き続き効果的な方法と実施について調査・研究を重ね、適時適切に判断していく。

②三セクとしては全国でもほとんど例のない「株式の上場」さらには「完全民営化」をはかることである。

防災体制の強化をはかれ 人材の育成や確保を行う

三田地議員 防災の人口を2〜3年程度の期限付職員として採用し、町防災計画の推進や地域振興協議会および町職員の自主防災の取り組みの指導を行ってはどうか。

町長 地域振興協議会や町職員の防災に関する指導は、県の地域防災サポーター派遣事業などを活用し、人材の育成や確保に努める。

国保税の割引制度の創設を 国の制度を注視し検討する

三田地議員 国は健康作りをする人の保険料(税)や医療費負担を安くする制度の検討を始めた。

町長 国は平成27年度中の実施を視野に入れ、病気予防や健康増進に取り組む公的医療保険者(市町村国保を含む)の保険料(税)軽減の検討を始めた。

この新たな制度の創設を注視し、検討を進めていきたい。

(※1) 持株会社のこと。詳しくは10頁をご覧ください
(※2) 株主からの出資金である資本金を取り崩し、資本金の額を減らすこと



三セクの経営改善を

さかもと のぼる
坂本 昇 議員

町民の理解を得て進める

伊達 町長

坂本昇議員 ①三セクの経営状況などは町民の重大な関心事になっている。

ホールディングス化を町民にどのように説明し理解を求め、戦略を展開していく考えか。

②岩泉きのこ産業における1ターナー者の返済問題は、一定の方向性を定める時期と思うかどうか。

伊達町長 ①三セク4社の株主総会でホールディングス化の構想を説明し、概ね了解を得た。専門家を交えて減資などの方法を調査研究する。

ホールディングス化構想をテーマにした町民懇談会の開催を検討し、町民への説明責任を果たしていきたい。
②1ターナー者や生産者の未収金は多額であり、支援を強化して会社の負担が大きくならないよう整理を進めたい。

被災住宅再建に支援策を 町独自の支援策を検討中

坂本議員 建築単価の高騰により、被災者の住宅再建構想が後退するかもしれない。

以前、町独自の支援

策を検討中とのことであつたが、どのように進めているのか。

町長 集団移転地は8月中旬までには現地区

画を表示し、画地面積と分譲価格を示す。

建築単価は高止まりの傾向にあることから、現状の支援制度に加え、さらなる支援策の充実が必要であると認識している。早々に復興本部会議を開催し、方向付けをする。

高齢者の支え合い対策は 地域主導の介護予防策を推進



笑顔があふれる町づくりを進めます

なっている。生涯にわたり高齢者が安心して生活を送れるための施策を示せ。

町長 第5期高齢者福祉・介護保険事業計画において、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステム構築を施策の柱として取り組んでいる。

坂本議員 高齢化が急速に進み、見守りや安否確認をはじめ医療・介護・経済・交通問題

など高齢者を取り巻く環境は非常に厳しい。地域における相互の支え合いが大きな鍵に

高齢者が孤立せず、住み慣れた地域で、生き生きと安心して生活が送れるよう、地域が主体となる介護予防の取り組みを広めていく。



スピード感を持った復興を

はやしざき きょうじろう
林崎 寛次郎 議員

集団移転地を秋口に配分

伊達 町長

町の考えを問う

林崎寛次郎議員 小本こども園、小本小学校、小本中学校の起工式が行われ、岩泉町震災復興計画が前に進んでいるが、いまだに被災者の74世帯、201人が仮設住宅での暮らしを強いられている。スピード感を持った町の復興について聞く。

伊達町長 復興事業は、当初予定した計画期間内には完了できる見込みである。集団移転地の完成は今年度末になるが、被災者の皆さんが前倒しで建築準備を進めることができるよう、秋口までには希望者に区画配分する。



小本小学校起工式の様子 (6月16日)

シイタケ IU ターン事業の評価は 都市部と農村の交流を実現

林崎議員 菌床シイタケ IU ターン事業 (※) について、岩泉きのこ産業に関する次の4点を聞く。

①この事業の評価と参入事業者が撤退した原因。

②債務を減らすために、ビニールハウスや備品を売却して結んだ岩泉きのこ産業との委託契約および数年後の契約解除は、生産者が納得の上、行われたか。

③近年、単年度赤字になっているが、経営改善計画によるものか。

④経営改善策として整備された培養棟などは、目的に沿って活用されているか。

また、事業者へ販売した菌床ホダの価格は適正であったか。

町長 ①都市部と農村の交流、田舎への移住紹介などが行われることとなった。

なお、撤退理由については、特定の生産者との個別の内容であり答弁は控える。

②膨れ上がる債務を解消するため生産者と協議し、納得の上、売却したものと認識している。

③多額の損失で債務超過に陥った時期もあるが、再建を懸け役員一丸となって経営改善を行ったことにより、雇用の拡大と安定経営がはかられた。

④施設整備により、生産量および売上高とも増加している。

菌床ホダの価格は、適正であったと考える。

(※) 平成17年から平成23年に実施したIUターン事業。本町に移住してシイタケ栽培をする人にシイタケ栽培ハウス費用の補助(最大300万円)を行った



おしえて! まちのこと①

テーマ

三セクの ホールディングス化



岩泉きのこ産業



岩泉乳業



岩泉産業開発



岩泉総合観光

ホールディングスとは、いわゆる持株会社（ホールディングカンパニー）のことだよ。
持株会社が三セクの株式を保有して、グループ会社にするんだ。

三セクのホールディングス化って、どんなこと?

岩泉農業振興公社は一般社団法人で、ほかの4社とは法人の形態が違うので、株式会社4社でのホールディングス化を考えているんだよ。

町の三セク5社がすべてそいつなの?

組織の再編で生じた余剰人員は、別の部門に配置して、さらなる事業の充実、拡大をさせる考えだよ。

従業員は減るの?

龍泉洞の水と岩泉ヨーグルト、菌床シイタケを欲しいお客様や業者は、3社それぞれに注文しているけど、ホールディングス化されると、1社で済むようになるんだ。
各会社は組織や事業を再編して、グループ全体で効率的に経営しているんだよ。

なぜ進めようとしているの?

三セク4社の概要

平成26年3月31日現在

会社名	設立年	主な業務	繰越利益剰余金	従業員数
(株)岩泉総合観光	昭和50年	○龍泉洞温泉ホテルの運営 ○龍泉洞レストハウスの運営 ○龍泉洞の清掃等管理（受託）	▲5462万円	47人
(株)岩泉産業開発 (※)	昭和57年	○龍泉洞の水の製造・販売 ○道の駅の運営 ○ワサビや短角牛肉の加工・販売 ○ふれあいランド岩泉の管理（受託）	▲1億42万円	75人
(株)岩泉きのこ産業	平成9年	○菌床シイタケの生産・販売	▲7464万円	143人
岩泉乳業(株)	平成16年	○牛乳や乳製品の製造・販売 ○コールドセンターの運営（受託）	▲1億7337万円	37人
計			▲4億305万円	302人

(※)「社団法人岩泉町産業開発公社」の収益事業部門を、平成14年2月に「株式会社岩泉産業開発」に転換設立

常任委員会レポート

障がい者・高齢者福祉を調査

総務常任委員会（坂本昇委員長）では、町内の福祉関係4施設の現地調査を5月27日に行いました。

○共同生活援助事業所「さくらほうむ・めいぷるほうむ」（対象：知的障がい者）

○生活介護事業所・就労継続支援B型事業所（※1）「いずみの里」（対象：知的障がい者）

○就労継続支援B型事業所「きぼうハウス」（対象：精神障がい者）

この3施設は、職員と通所者が一体となり生活している状況でした。今後の障がい者施策として、ノーマライゼーション（※2）の理念の浸透や、関係機関と連携した生活支援の環境整備が必要であると感じました。



記念タオルの印刷工程の説明を受ける委員（いずみの里）

ン（※2）の理念の浸透や、関係機関と連携した生活支援の環境整備が必要であると感じました。

○高齢者生活福祉センター「どんぐり苑」（対象：高齢者）

居住部門は冬期間の利用が大半であることから、集落から離れて暮らす一人暮らしの高齢者に対し、安全確保をはかる対策が望まれます。

（総務常任副委員長 八重樫龍介）

3地区の災害復旧状況を調査

産業常任委員会（野館泰喜委員長）では、集中豪雨で被害があった国境・見内川地域などの復旧状況調査を5月29日に行いました。農業関連は復旧が終わり、水田も植え付けられていましたが、道路や河川については、一カ所のみは復旧でしたので、早期完成を期待します。

小本地区は、小本・中学校の移転地造成が終わり、大打撃を受けた小本中学校の校庭を横切る避難路や小本の堤防工事が進み、復旧・改修が目に見えてきていました。

大牛内地区では、雪害停電により断水した水道施設を調査しました。埋設管の経年劣化による漏水や断水、さらには取水施設の非常電源設備が稼働しないなど老朽化が目立ちました。岩泉で最大の畑作・酪農・畜産地帯にとって水の確保は絶対です。水源は田野畑村ですが、利用割合は本町が7割です。早期の改修・改善を要望します。

（産業常任委員 三田地久志）



小本地区の復旧・復興状況を調査する委員

皆さんからの 請願・陳情

6月定例会に提出された請願は2件でした。

総務常任委員会に審査を付託した結果、次のとおり決まりました。

なお、陳情書1件と要望書2件は、議会運営委員会で協議し、議員と町当局へ写しを配付しました。

請願件名	請願人	紹介議員	審査の結果	本会議での採決
安全・安心の医療・介護実現のための夜勤改善・大幅増員を求める請願書	岩手県医療労働組合連合会 執行委員長 中野るみ子	林崎竟次郎	採択	採択に全員賛成。国と県の関係機関に意見書を提出
ふたたび被爆者をつくらないために「現行法」（原子爆弾被爆者に対する援護に関する法律）改正を求める請願	岩手県原爆被害者団体協議会 会長 伊藤宣夫	林崎竟次郎	継続審査	継続審査に全員賛成

（※1）就労が困難な人に働く場を提供し、知識および能力の向上に必要な訓練を行う非雇用型事業所
（※2）障がい者と健康者は、お互いが特別に区別されることなく、社会生活をともにするのが正常なことであり、本来の望ましい姿であるとする考え方

員と語る会

第3回「議員と語る会」は、3月定例会の議会報告と意見交換を行いました。各分野で出された意見の一部を紹介します。

林業

(6月17日開催)



適切な森林管理は、産業振興や防災につながります。機械化の遅れが後継者問題に直結しているとの意見もありました

高性能機械の導入を急げ

岩泉町森林組合を中心に林業関係者19人と議員13人の意見交換会は、林業の問題について活発な論議が展開されました。

▶町はかなりの面積の山を所有しているが荒れた所が多い。特に、奥地は造林され、改植されたが、荒れ山だ▶年収200万円に届かないため若い人が入ってこない▶町内93%の森林にはたくさんの捨て間伐材がある。有効利用のため、森林組合に近代的な高性能機械が必要だ▶復興関係の用材は、針葉樹は集まっているが広葉樹が足りない▶軽油の免税(※1)が難しくなっている▶大面積を所有している人は少ない。小面積を所有する農林家へ啓発を行い、更新伐(※2)という考え方で森林整備を実践すべきだ▶町有林4000町歩と大川財産区2000町歩、合わせて6000町歩を50~60年計画で永遠のサイクルに乗せるよう計画するべきだ。

町土の93%を占める森林にもっと目を向けて、活性への舵を切らなければならないと強く感じました。(産業常任委員長 野館泰喜)

商工業

(6月16日開催)



商工業や観光、食産業のネットワークについて、活発な意見交換が行われました

商工業振興には若者の力が不可欠

商工業関係者19人と議員13人による意見交換会は、岩泉商工会であらかじめ出席者の考えをまとめていただき、多岐にわたる議論が展開されました。発言の要旨は以下のとおりです。

▶観光や食産業の広域化に取り組むべきである▶6次産業の農家応援施策の具体的な内容がない▶観光サイドの強化、ネットワークが必要である▶岩泉高校を卒業し地元で暮らすには覚悟がある。減税や物づくり支援など行政の手立てが望まれる▶岩泉高校卒業生の雇用時における優遇措置や選択できる雇用の場が必要である▶土地購入費の補助や安いアパートを考えて、若者の定着をはかるべきである▶人口減少の歯止め対策の一つは、町民のルール作りである▶岩泉線は史跡として活用する魅力がある▶「兼業」ではなく「複合」的な考えで仕事をするのが、安定しやすい。

そのほかにも多くの提言を受け、これらの課題克服に向け議会全体で取り組んでいきたいと感じました。

(総務常任委員長 坂本昇)

(※1) 軽油引取税は道路整備に使用する目的税であるが、法令で定める特定の用途に使う場合、県知事の承認により課税が免除される

(※2) 樹木を伐採し、萌芽更新や苗木植栽により森林の再生を目的とする施業



初の

「分野別」議

参加者 インタビュー



くどう みつる
工藤 満さん
(商業・54歳)

出席者全員が商工業を軸に、岩泉を良い方向に向けたという同じ意識を持った意義のある話し合いでした。ただし、時間不足でした。

時間が足りない

議員の皆さんの「勉強不足で、勉強不足で」という言葉が耳につきました。次回は多少なりとも勉強していただきたいものだと思います。

もっと勉強を



あべ たけふみ
阿部 剛史さん
(林業・51歳)

議員の皆さんが強く町の事を考えていることが分かりました。小学校、中学校、高校と議会をつなげて、さらなる町の発展のために頑張ってください。

パイプを広げて



まちひら こうしよう
町平 紅葉さん
(岩泉高校・2年)

次回の議員と語る会は 11月の予定です

皆さんの参加をお待ちしています

高校生

(6月19日開催)



こども園や老人施設で、吹奏楽や郷土芸能を披露したいという意見もありました

暮らしたい町ナンバーワンに

第1回目の岩泉高校生徒会執行部14人と議員11人による意見交換会は、予定の時間を越える中身の濃い内容で終わりました。生徒の皆さんの発言要旨は以下のとおりです。

▶小川地区のバス通学に不便がある。校門閉鎖から最終便まで1時間以上の待機が必要でその場所もない▶公募による看板を作り、ゴミ捨て防止の啓蒙をしたらどうか▶自然をもっと活用すべき。ジオパークのPRが足りない▶地域の隅々までもっと活気がほしい▶鍼灸を学び、戻ってきて恩返しをしたい▶高卒後、岩泉に残る人は収入が目的ではない。親のことや休みなどが重要で、福利厚生がしっかりしていることが求められている▶若い人、女性が議員に立候補できる環境を創って欲しい。

そのほかにも多数の貴重なご意見をいただきました。全体的に、男女比率4対6の執行部は、「学校、就職で外に出ても、老後には帰ってきたい。暮らしたい町ナンバーワンになって欲しい。」と締めくくりました。

(産業常任委員長 野館泰喜)



質疑のその後

どうなりました...あの提言

議会だよりでは、定例会で行われた質疑の要旨を掲載しています。議員の行う提言などは、町政にどう反映されているのでしょうか。これまでの質疑の中から一部をピックアップし、その後の経過について追跡してみました。

◆平成 26 年 3 月定例会

質問 除雪車を増やすべきでは

平成 26 年 2 月の記録的な大雪では、各地区の町道は除雪が困難な状況が続き、安家地区では 4 集落が一時孤立状態となった。除雪車が足りないのであれば、増やすべきである。

答弁

大雪の場合、道幅を確保するためにロータリ除雪車が必要である。町に 1 台あるが、県から 1 台借りて除雪を行った。ロータリ除雪車の新規購入を検討する。



豪雪で除雪が進まない安家地区の様子
(平成 26 年 2 月 16 日撮影)

6 月定例会で除雪機械 1 台の購入に関する議案を可決しました。また、補正予算を議決し、第 5 回臨時会 (7 月 9 日開催) で、除雪機械 6 台の購入に関する議案を可決しました。

6 月補正予算の状況 (除雪関係)

- ◆除雪機械購入費 2 億 1938 万円
- ◆除雪機械格納庫建設工事費 4762 万円
 - ・旧安家中学校グラウンドに除雪機械 8 台を保管する格納庫を建設

町所有の除雪機械台数

	平成 25 年度末	平成 26 年度購入	平成 26 年度末見込
ロータリ除雪車	1 台	2 台	3 台
除雪グレーダ	2 台	—	2 台
除雪ドーザ	14 台	5 台	19 台
計	17 台	7 台	24 台

ひとまひとインタビュー

6月定例会の傍聴者数はのべ6人でした。傍聴された方の中から、小本の三浦祐夫さんに傍聴した感想などをインタビューしました。



みうら 祐夫さん
(中島・59歳)

長期的な 展望に立って 改革を

―傍聴のきっかけは。
三浦 岩泉町に転入を機に、以前より機会を見つけて傍聴しなければと思っていました。

―傍聴された感想はどうでしたか。
三浦 一般質問を聞けなかったので少し残念だった。予想通り建設的な質疑はなく、残念な気がした。

―議員に対する要望がありますか。
三浦 十分な調査や学習をもとに、強い信念と使命を持って、全町民に傍聴されても恥ずかしくない議会にしてほしい。

―議会や町政に対する要望などはありますか。
三浦 いつも宮古市議会を傍聴していて、やる気のあがる議員が3分の1もいない気がして残念に思っていた。

ほかの市町村も似たり寄ったりかなと想像していた。傍聴して、予想通りの気がして少し残念な気持ち。千年に一度の復興にかける意気込みを、行政や議員の皆さまには、ぜひとも見える形で示していただきたい。

そして、町民の負託にこたえるだけの意識のない人は、潔く退くぐらいの覚悟を持ってほしい。
20年後、30年後の少子高齢化、人口激減の長期的な展望に立って改革を進めてほしい。

ご意見・ご感想をお待ちしています

議会だよりでは、町民の皆さんからのご意見、ご感想をお待ちしています。

「読みやすく、わかりやすい、親しまれる議会報」を目指して編集に取り組んでいますが、皆さんからのご意見に耳を傾けながら「より良い紙面づくり」に心掛けていきます。

TEL 22-2111 (内線252)
FAX 22-5566



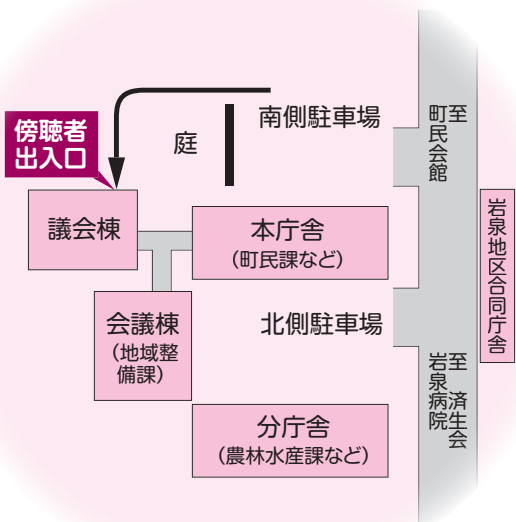
広報編集作業の様子

出かけませんか 議会の傍聴へ!
次の定例会は9月10日開会予定です
詳しくは、議会事務局へおたずねください



「空きビニールハウスの活用が気になる」と話すオクラ生産者の三上博さん(釜津田・53歳)と子どもたち

■手続きは、連絡先と氏名を書くだけです。途中退席もできますので、時間にしぼられることもありません。
■定例会は年4回、臨時会は必要に応じて開かれます。





ひとめにだき
一目二滝

いわいすみ再発見

安家松ヶ沢の溪谷を辿り、集落を過ぎて程なくして、本流と支流が滝となつて落ち合う場所がある。水量が豊かな2つの滝が競い合うように山峡に滝音を轟かせ壮観である。

春の芽吹き、夏の緑、秋の紅葉と四季折々の景観もなかなかであるが、冬に足を踏み入れたことはない。

石垣 正雄(厄額 73歳)

私・の・好・き・な・ア・ン・グ・ル・㊦

表紙によせて

大川地区高齢者学級は、学年42人、浅内小児童12人で開催されました。ゲームの後には、一緒に給食を食べて楽しいひと時を過ごしていました。



編集後記

小本地区に復興の足音が響き渡ってきました。小本こども園、小学校、中学校、津波防災避難施設と立て続けの起工式で、これから、その姿が大きく変わろうとしています。「議員と語る会」では、岩泉高校生と貴重な時間を共有できました。将来のふるさと岩泉へ、想像以上にしっかりとした思いを持ち合わせていたことに感心し、清らかな若い頭脳に多くの刺激をいただきました。感謝。
(編集委員 野館泰喜)

議会広報編集委員会

議長	加藤久民
委員長	合砂丈司
副委員長	三田地久志
委員	八重樫龍介
	林崎 竜次郎
	野館 泰喜
	坂本 昇



古紙のリサイクルに取り組むオフィス町内会と、森林の再生に取り組む岩手県岩泉町との連携により実現した「森の町内会—問伐に寄与した紙—」を使用しています。